

A I P

自己免疫性膵炎

- ① 慢性膵炎の2～5%にあたる。
罹患率1万人に1人

- ② 日本では1型が多い。中高年男性。
高IgG4血症（135mg/dℓ以上）AIPに最も特徴的なのはIgG4高値で、9割近い症例で陽性となる。
高IgG血症（1800mg/dℓ以上）
高γグロブリン血症（2g/dℓ以上）

- ③ 2型は比較的若年で発症し、上にあげた血清学的所見はなく、正常範囲である。

- ④ 治療法はステロイド（経口）が標準であるが、ステロイドなしで自然寛解することも報告されている。

1型・2型ともにステロイド治療は有効であるが、1型では高頻度に再燃する。

ステロイド初期治療はPSL30～40mg/日で投与を開始し、1か月継続する。

1か月間内服すると、膵腫大やPD狭細像は明らかに改善する。

以後は徐々に漸減して、投与開始後2～3か月を目安に、維持量5mg/日前後で維持する。

AIPはステロイドで高率に寛解が得られるが、治療26Wで終了した場合の再燃率は58%と高率である。

維持療法5mg/日以上で、3年間継続した場合でも、20～30%に再燃が認められる。